

(5) 調査結果について

小学校

〈総合評価の状況〉

男子児童では3年生、女子児童では6年生が、他の学年と比べて「総合評価C以上」の割合が高い傾向にあった（3年生男子：約65.7%、6年生女子：約63.1%）。

一方、2年生男子（約60.5%）と4年生女子（約58.4%）は、他の学年に比べて「総合評価C以上」の割合が低い傾向が見られた。

（※なお、スポーツ庁「第3期スポーツ基本計画」では、「総合評価C以上」の割合を全国的に80%以上とすることを目標としている。）

〈総合評価の経年変化〉

令和6年度と比較すると「総合評価C以上」の割合は全体として増加し、「総合評価E」の割合はわずかに減少した。

〈種目別の状況〉

（男子児童）

反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げで多くの学年において上昇傾向が見られた。一方、上体起こしや20mシャトルランでは下降傾向の学年が比較的多かった。

（女子児童）

反復横跳びなどで回復傾向が見られた。一方、握力や50m走では下降傾向の学年が比較的多かった。

〈今後の取組〉

○ 授業改善

- ・児童が「できた」「わかった」と実感し、「もっとやりたい」と感じられるような魅力ある授業づくりを進める。
- ・専門家によるモデル授業や体育実技研修会、外部講師・指導主事による学校訪問などを通じて、授業改善を支援する。
- ・各校に設置されている「子どもの体力向上委員会」を中心に「健やかタイムプラン」を計画・実践し、中長期的な体力向上を図る。

○ 運動の習慣化

- ・幼児期・児童期に安全で楽しい運動遊びを保護者・教員とともに推進し、体力向上の基盤づくりと積極的な運動意欲の育成につなげる。
- ・教育情報誌「教育しが」や県ホームページに調査結果を掲載し、現状を共有するとともに、家庭で取り組める運動を紹介して家庭・地域での実践を促す。

- ・本県児童の課題については、「湖っ子チャレンジランキング」の取組を通じて改善を図る。

中学校

〈総合評価の状況〉

男子生徒では総合評価 C 以上の割合が 3 年生 76.6% と最も高い結果となった。(1 年生 59.4%、2 年生 69.3%) 女子生徒では総合評価 C 以上の割合が 1 年生の 83% と最も高い結果となった。(2 年生 79.6%、3 年生 75.4%)

(※スポーツ庁第 3 期スポーツ基本計画では、総合評価 C 以上の生徒の割合を 85% 以上に増加させることを目指している。)

〈総合評価の経年変化〉

総合評価 C 以上の割合は、令和 6 年度と比較して若干の回復傾向が見られた。総合評価 D の割合は 19.8%、総合評価 E の割合は 6.3% と割合が減少する結果となった。

〈種目別の状況〉

持久走では、一部、回復傾向が見られるものの、ここ数年で著しい下降傾向が見られる。特に 50m 走は全ての学年において前年度より下降傾向が見られた。一方、ハンドボール投げでは、横ばいか回復傾向が見られた。長座体前屈では、2・3 年男子の値と 3 年女子の値が 10 年間で最高値となった。

〈今後の取組〉

○ 指導力の向上

全ての生徒が「楽しい」を実感し、自ら運動に親しむ態度を育成する授業づくりに取り組む。

○ 授業内容の充実

研修会で本県生徒の体力状況の周知を行い、県が作成している PDCA シート「生徒の体力向上のための取組」を活用いただき、生徒の持久力をはじめとする体力向上に役立てもらうよう働きかける。

高等学校

〈総合評価の状況〉

男子生徒では総合評価 C 以上の割合が 3 年生 83.3% と最も高い結果となった。(1 年生 78.0%、2 年生 83.2%) 女子生徒では総合評価 C 以上の割合が 1 年生の 70.0% と最も高い結果となった。(2 年生 68.6%、3 年生 69.1%)

(※スポーツ庁第 3 期スポーツ基本計画では、総合評価 C 以上の生徒の割合を 85% 以上

に増加させることを目指している。)

〈総合評価の経年変化〉

総合評価 C 以上の割合は、令和 6 年度と比較して若干の減少傾向が見られていたが、令和元年度並みまで増加した。

〈種目別の状況〉

握力、上体おこし、20m シャトルラン、持久走、50m 走、ハンドボール投げが男女とも下降傾向が見られる。特に、持久走はここ数年で著しい下降傾向が見られる。一方、長座体前屈は回復傾向が見られる。

〈今後の取組〉

○ 授業内容の充実

主体的・対話的で深い学びにつながる授業の中で、自己や仲間の課題を発見し、技能面や体力面の課題解決に向けた授業を展開する。

○ 指導力の向上

実技研修や安全に関する研修や講習会など、また小・中・高等学校および特別支援学校での授業検討会や公開授業を充実させる。

○ 望ましい生活習慣の定着

生涯を通じて自ら健康な体づくりに取り組めるよう、学校、家庭が連携し、運動の習慣化とともに食育および睡眠に関する指導を充実させ、生徒の望ましい生活習慣の定着を図る。

○ 運動機会の充実を図り、体力向上につなげる

部活動の効果的な活動メニューづくりや活動時間・休養日の設定など適切な運営と管理を示した「部活動の指導について」の配布や活用等により、合理的でかつ効果的な活動の推進を図り、運動部活動の充実に努める。また、運動部活動の顧問等を対象とする研修会を行うなど、研修機会の充実に努め、指導者の育成や資質向上に努める。